



# 高浜市の未来を描く市民会議

## ニュースレター 2010. 3. 4(木) VOL.3



事務局:高浜市地域協働部地域政策グループ 高浜市青木町四丁目1番地2 TEL0566-52-1111(内線 352)

### 高浜市の姿を知る -人口はどうか？ 財政の状況は？-

2月10日(水)、市役所第2会議室にて第3回市民会議が行われました。参加者は120名でした。今回のテーマは「高浜市の姿を知る」。まず最初に「高浜市の人口はこれからどうなるのか？」と題して、高浜市の将来人口の見通しなどについて、パワーポイントを使って説明。計画の目標年次である平成33年度の総人口は48,000人との予測が出されました。

次に「高浜市の財政状況」と題して、予算規模、市債(借金)や税収の推移、他自治体との財政比較などについて説明。全国的に比較すると高浜市の財政力は全国上位にあるが(ex.財政力指数:783市町村中56位)、景気低迷により平成22年度の税収は落ち込むという説明がありました。

最後に、第2回のゲストにお越しいただいた中川幾郎先生(高浜市総合計画審議会会長・帝塚山大学大学院教授)から、「高浜市はこれまでに健全な財政運営を随分頑張ってきた。他自治体に比べて見通しは明るいが、油断は禁物。人口ピラミッドもやがて先細りになる。人口推計や財政状況のデータを参考に“あれも・これも”ではなく、どういう政策に重点を置くか、メリハリを考えていくことが大切」と、今後の策定作業に向けてのアドバイス、エールを送っていただきました。

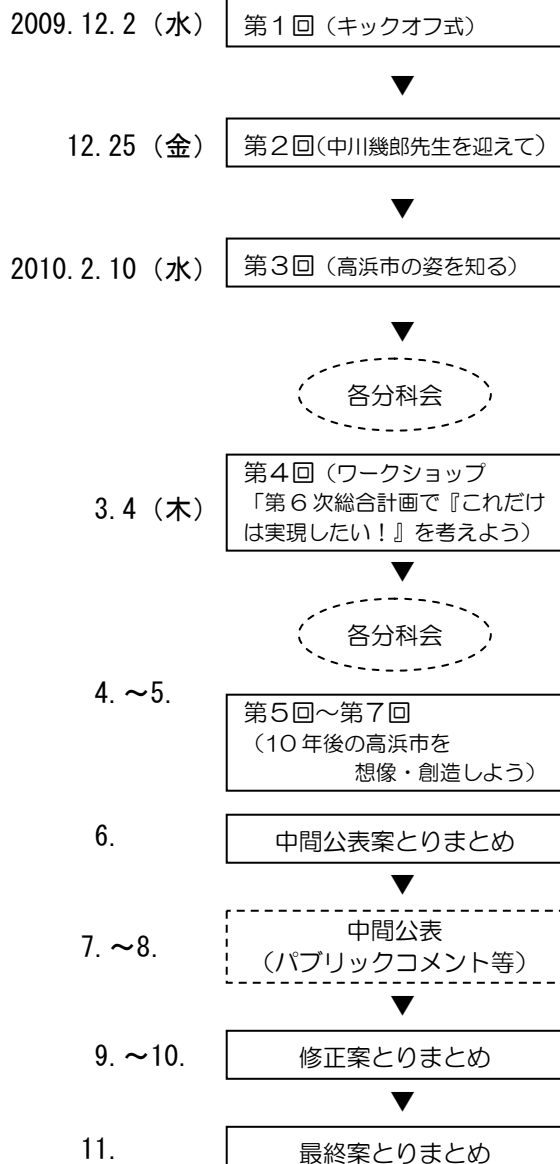
全体説明終了後は、各分科会に分かれ、検討テーマの確認、今後の進め方や役割分担等について討議しました。

いよいよ本格的な検討作業が始まります。  
みなさん、頑張ってください！

#### ▼第3回市民会議の様子



#### 市民会議スケジュール



## 各分科会での議論

### 自治基本条例分科会

「自治基本条例ってなんだろう？」をテーマに、今、なぜ条例が必要なのか、職員が資料を用いて説明。自治基本条例とは自治体運営の最高規範性を持っており、総合計画とあわせて高浜市のまちづくりの両輪となること、約1割の自治体で策定されていること、最近策定された条例を参考にしながら高浜市として盛り込むべき内容を検討していくこと、今後月1～2回の頻度で分科会を開催していくことを確認。メンバー同士、意見交換を行いました。

#### 【意見・提案】

- ・ 地方自治法に住民自治の仕組みが規定されていないと資料に書かれているが、自治法は住民自治の根本ではないのか？（→中川先生より：地方自治法には、団体自治についての規定はあるが、住民自治の規定は限られている。住民投票条例、参画や協働の位置づけ、まち協に関する規定は自治基本条例で規定していくべき。）
- ・ 生活に身近でなく、意味のわからない用語が多い。（→中川先生より：行政用語を生活用語にしてしまうと、条文が長くなったり、意味が変わってしまうことがある。用語の定義や条文解説を入れるなどにより、わかりやすい条例としていくことが大切。）
- ・ 高浜市の条例では、まちづくり協議会の権能に触れるべき。
- ・ 今回の市民会議の手法は、住民が行政に参画する窓口を開いたもので良い試み。こういうことが20年先、30年先の高浜市の基盤づくりになっていくのではないかな。

\* \* \* \* \*

次回（3/12）のテーマは「条例の全体像を考えよう」。宿題として、条例が「こんな高浜市になったらいいな」「こんな高浜市にしていきたい」といった自治基本条例に対するイメージや期待、条例ができることによって実現したいこと、取り組みたいことをワークシートに書き出してくることを宿題として散会しました。



▼なんと廊下で  
ディスカッション!!



### 行財政運営分科会

#### 【意見・提案】

- ・ 市民と行政と一緒に「高浜市を共同で経営する」という観点で「あれも、これも」ではなく「あれか、これか」を選択する仕組みづくりを考えていこう。
- ・ 何が課題なのかよくわからない。まずは、勉強会をやっていきいたい。
- ・ この分科会は「財政」だけが検討テーマではない。

\* \* \* \* \*

今回は2月22日（月）に開催。総合計画策定基本方針の確認、他市の事例紹介、高浜市のこれまでの取り組み（構造改革・H22年度当初予算）等について、勉強会を行うこととしました。

## 各分科会での議論

### 教育分科会

職員より、教育分科会では「教育基本構想」の検討も行うことの説明がありました。

#### 【意見・提案】

- ・ 総合計画と教育基本構想の位置づけを図案化して欲しい。
- ・ 過去の動向や現状を知る勉強会の機会が必要。(ex.学校評議員制度)
- ・ まち協や学校などへ出向いて情報収集するとよい。
- ・ 私達は思いついたことを述べ、それを吸い上げて構想をつくっていく。



### 生涯学習分科会

職員より、生涯学習分科会では「生涯学習基本構想」の検討も行うことを説明。「子どもへの視点」「青少年育成」がキーワード。今後、専門家を招いて勉強会等を開催していくことを確認しました。

#### 【意見・提案】

- ・ 平成16年に策定された「生涯学習基本構想・基本計画」の達成度や課題などの検証が必要。
- ・ 構想策定後を考える。種を蒔いたら育てていくことが大切。
- ・ 若い世代、特に義務教育を離れた高校生を、どう取り込んでいくかが課題。

### 子育て・子育て分科会

#### 【意見・提案】

- ・ まだ、分科会で検討する内容をイメージしにくい。市民の大半は「〇〇って、どうなっているの?」といった率直な疑問からスタートするのが現状。まずは、そうした疑問を出すことから始めていくと、子育て・子育てに関する問題点や目標が見えてくるような気がする。
- ・ 子どもを産み、育てやすい環境を考えたとき、他の分科会で検討されている内容とも関連が出てくる。全体の中のバランスで考えることも必要だと思う。
- ・ 第5次計画の総括や今後の財政状況の予測に関する資料が欲しい



### 産業分科会

#### 【意見・提案】

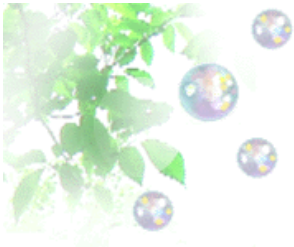
- ・ 現在の高浜市の産業（及び会社等）の実像がわからない。団体や一般商業者からヒアリングやアンケートを行って意見を集めてはどうか。
- ・ 現状分析は賛成。しかし、それだけでは新しい考えが生まれにくいので、新規提案の検討も併行すべき。
- ・ 「企業が来たくくなるような町にする方法」を行政と考えるのが用務。高浜市を選び、このまま高浜市に居てもらうには、どのようなことを考えなければいけないか。
- ・ 各まち協から「地域計画」が出ている。それぞれの地域性や考え方を拾って、その中からつなげる必要がある。

## 各分科会での議論

### 環境分科会

#### 【意見・提案】

- ・ 環境分野は行政（市域全域）のことから市民（一般家庭）レベルのことなど幅広い。視点をどこにするのかによって議論も違う。また、行政と市民意識は格差がある。意識格差をどうするのかも議論すべき。
- ・ 環境分野は資源ごみの持ち出し問題や清掃活動など広い意味での環境があるので、どこまで総合計画に反映するのかを検討していきたい。
- ・ 「みんなでまちをきれいにしよう条例」「ごみ処理基本計画」、「緑の基本計画」といった資料を配布し、勉強会などを設けていく。



### 都市基盤分科会

関連する分野別計画や第5次総合計画の進捗状況等について職員から説明。後日、詳細な資料を用意することとしました。



### 地域福祉分科会

#### 【意見・提案】

- ・ 高浜の現状を振り返り、課題を出す必要がある。計画はつくって終わりではなく、策定に関わった一人ひとりが計画の実現に向けて一役を担っていくことも大切。
- ・ せっかく良いことをしていても宣伝力がない。現在行っていることをもっと知らせる必要があるのではないか。
- ・ 行政の福祉サービスだけでは解決できないものも多く、地域の応援が必要となってきた。今後、制度の狭間になっている部分のサービス需要の増加が予想される。
- ・ 住民同士のつながりや居場所を作っていくため、身近な場所で住民同士が寄り合うことができる場、普段から参加しやすい場が必要
- ・ 次回の会議までに、行政において既存の福祉資源の活動内容等の一覧表を作成し、メンバーへ配布する。

### 健康分科会

#### 【意見・提案】

- ・ 第5次総合計画の進捗状況の検証が必要。また、新市長のマニフェストに基づいた検討も必要である。
- ・ 「健康」と一言でいっても、子どもの健康もあれば高齢者・障がい者などの健康もあり非常に幅広い。「今回は子ども」、「次回は高齢者」といった年齢層や対象を絞った検討も必要。

